

「主体的に学びを深めあう生徒の育成」 ～ともにわくわくする学びを通して～

米沢市立第二中学校 門脇 圭佑

1 はじめに

本校では、教育スローガン「友愛のもと自立と英知の旗を掲げよう」のもと「極める」、「尽くす」、「鍛える」を学校目標として、日々の指導に当たっている。現代を生きる私たちの生活は、科学の発展と密接にかかわっている。そのため、理科の学習内容は、生徒たちの身近な生活に深く関連しているといえる。理科の時間に習った事象が自分の生活に関係しているという実感は、生徒たちの「わくわく」に繋がると考えられる。理科と日常を結びつけることで、生徒の科学に対する興味を引き出し、科学を「極める」精神を養うことに繋がっていききたい。

2 今年度の授業実践より

今年度から各自1台ずつタブレットを使用できる環境になったため、タブレットを活用した授業を積極的に行った。特に、生徒の日常生活で生じた疑問をもとに、レポートを作成する活動を各単元末に行った。

◎生徒の実生活の疑問を活かす「レポート作成」

①単元「化学変化と原子・分子」

日常生活において化学変化が利用されている物、現象について、疑問に思っていることを調べ、レポートにまとめる活動を行った。

②単元「天気とその変化」

日常生活で耳にする、気象に関する言い伝えについて、科学的根拠を調べ、レポートにまとめる活動を行った。

③単元「電気の世界」

日常生活で、電磁誘導が利用されている例を調べ、レポートにまとめる活動を行った。

3 成果と課題

◎成果

- ・生徒たちが単元の学習内容をより身近に感じ、「わくわく」しながらレポートにまとめることができていた。自分の力でレポートを作成することで、単元への理解をより深めていた。
- ・生徒が各自のタブレットを用いて、レポート学習を行うことで、一人一人が自分の疑問を出発点として探究する姿がみられ、「極める」精神の育成に繋がった。

▲課題

- ・接続環境による授業への影響がかなり大きく、調べ学習、レポートの作成及び提出をすべて各自のタブレットで行っていたため、接続の不具合も想定した対応が必要だった。
- ・タブレットの操作が得意な生徒と、不得手な生徒で学習の進度や完成度に差が出てしまうため、使用機器の基本的な操作を学習する機会等を十分に設ける必要があった。

4 おわりに

授業の活動を通して、理科の学習内容を日常に置き換えて考えるきっかけになった。生徒自身の日常にあふれている科学に焦点を当てることで、身近な「わくわく」を感じながら探究することができていた。今後も日常の科学からのアプローチを一つの手立てとして活用していきたい。

また、今年度も、感染防止対策を徹底しながら、実験等の活動を行ってきた。理科の授業において、実際に見て活動することは主体的な学びの点でも非常に重要な意味を持っている。ICT機器の活用によって、生徒の理解が深まると考えられるが、やはり、実際の生徒の活動をより大切にしていきたい。可能な限りの対策を続け、生徒とともに「わくわく」する学びを授業で行っていききたい。

